

平成 29 年度 第 13 回武蔵野市環境市民会議 議事要録

日時 平成 29 年 10 月 24 日（火） 18 時 30 分開会

場所 武蔵野市役所 412 会議室

出席者 委員 14 名、事務局 3 名

（委員：大江委員長、鈴木副委員長、新井委員、一之瀬委員、伊藤委員、落合委員、小玉委員、小林委員、中山委員、中野委員、西上原委員、松岡委員、三浦委員、郡委員）

内容 武蔵野市の環境保全（環境施策に関する年次報告書）について  
第 9 期環境市民会議総括

武蔵野市の環境保全（環境施策に関する年次報告書）について

発言者	要旨
事務局	（「武蔵野市の環境保全（環境施策に関する年次報告書）」（以下、年次報告書という）について説明）
委員長	まず、この年次報告書について委員の意見をもらいたい。 報告書には今期の環境市民会議で取り上げていない事項もあり、市では多様な事業が行われていることが分かる。何か追加するようなことはあるか。
副委員長	環境という概念は非常に多様である。年次報告書では、人間にとってどうか、との視点で環境について捉え、まとめられている。 年次報告書に追加して欲しいことは、実績だけではなく、定性的な評価があればよいと思う。評価があることで次年度にもつながっていく。 また、数量が記載されている項目の中には、数値が細かすぎてどのような意味を持つものなのかわからない部分がある。補足説明を加えてみてはどうか。
事務局	評価については、武蔵野市環境マネジメントシステム（EMS）と絡ませて行う予定。その中では、庁内各課で評価をする予定である。評価について、次年度以降については、年次報告書に記載していきたいと考えている。
委員	年次報告書の 21 頁、「ガスエンジン」という語句が抜けている。「ガスエンジン・ガスタービン」と記載したほうが良い。
委員長	他に無いようなので、次の議題、環境市民会議の総括に移る。

第9期武蔵野市環境市民会議の総括について

発言者	要旨
事務局	(資料1「第9期環境市民会議の総括」及び資料2「環境市民会議のあり方に関するアンケート結果」について説明。)
委員長	各委員から第9期環境市民会議を総括した意見をもらいたい。
委員	<p>グループワークを行い、各委員の専門分野や考え方を知ったうえで議論をするとよいと考えた。また、武蔵野市のエネルギー施策を考える場合、自治体単独で実施できる分野は少ないため、周辺地域と連携したエネルギー施策を希望する。</p> <p>次に、年次報告書について述べる。新規事業がある場合、1頁目に新しく加えた項目とその必要性を記載すると、よい報告書に仕上がるのではないかと考えている。</p> <p>また、定性的な項目については、「バランススコアカード」のようなツールを活用することで、目標を定められると考えている。</p>
委員長	確かに、委員の専門分野や考え方を知った上で議論をすることは大切であると考えている。
委員	会議で取り上げるテーマが広く、正直驚いた。また、パブコメを見たが市民からの細かい指摘があり、驚いた。
委員	施設見学会では燃料電池自動車MIRAIに試乗することができ、良い経験となった。また、玉川上水などの実地研修では蛇などの生物を見ることができ、まだ武蔵野市の環境は豊かであると感じた。
委員	<p>会議内容が自身の専門分野と異なり、戸惑いを感じていた。また、個人的には、生物多様性などのグローバルな話を市町村レベルで議論することに違和感があった。</p> <p>この夏、セミの鳴き声から地球温暖化を実感した。クマゼミ（基本的に箱根以西で生息する）の鳴き声が、東京で聞くことができた。このような周辺環境の変化に気づけたことは、この環境市民会議がきっかけとなったのではないかと感じている。そしてさらに、なぜそのような環境変化が起こっているのか考えることにもつながると考えている。</p>
委員	環境問題について、非常に多岐にわたっていることが理解できた。今後、子どもたちに環境についてどのように教える予定なのか知りたい。
委員	5月に環境市民会議でクリーンセンターの見学会をした時と同じように、教員や児童でもクリーンセンターの見学会を行った。また、先日行われたプレセカンドスクールでは、武蔵野市とのごみの分別の仕方の違いを児童は学ぶことができた。社会科では、ごみの分別を通じてごみのゆくえを学習するカリキュラムを組みこんでいる。身近なところから環境について学ぶ機会を提供していく。

委員	委員交代により、7月からの会議出席となったが、武蔵野市に来て考えたことは、緑豊かな自身の出身地と大きく変わらない環境があることである。都心に近い一方、自然も十分あることがわかった。
委員	都心の景色と比較すると、武蔵野市は自然が豊かであることを感じた。ちなみに、武蔵野市の予算の中で環境についてどれだけ割り当てられているのか知りたい。
委員	以前、セミの抜け殻調査を行った個人的経験もあり、この会議で取り上げた生物多様性についてはとても印象に残っている。この会議においては、バランスのとれたテーマ構成となることが望ましいと考えている。また、様々な立場の委員によって構成されることが望ましいと思う。今後については、消費者や生活者の意見を多く聞くような会議として欲しい。 また、年次報告書では数値データだけでなく、説明文章を加えたらよいと感じている。
委員	事業者として必要があれば情報提供する立場でこの会議について考えていた。また、玉川上水を歩いてみて、武蔵野市は緑の中を歩きながら横断できることに驚いた。
委員	今期で中心的に取り扱った生物多様性は専門外で、お力になれずお詫びしたい。
委員	第9期の会議を行ってきたが、いまだに環境の概念について悩んでいる。環境は何を扱うものか。武蔵野市のように小さな自治体は何をすることで、本当に市民の方が望むことに応えることができるのか、未だにわからない。 武蔵野市の予算の話が出たが、武蔵野市全体の予算（一般会計）は約650億円程度。特別予算も含めると900億円くらいになる。そのうち環境については40億程度。その内訳は、クリーンセンターの工事やごみの処理、下水道の整備・処理、市立公園の管理などである。
副委員長	今期で取り上げた生物多様性や地球温暖化については、専門家が多数集まって議論をしてもなかなか答えの出ないテーマである。 そのため、市民レベルで議論する場があるだけで、半分ほど市民会議の目的は達成されていると思う。一部の地域では、地球温暖化が進行することで生物多様性が豊かになる事例もある。環境という言葉は、難しい。たとえなどを用いて理解できた気にならず、環境について考え続けることが良いことだと考えている。算数の問題を解くように、答えを環境に求めるのは間違いだと考えている。 先ほども市立公園の話があったが、同じ面積の緑地があったとしても、100年続いている緑地と整備されたばかりの緑地では、価値の違いが生ま

	<p>れる。</p> <p>単なる面積比などではなく、継続性を評価してすることが大切だと考えている。環境については、エコプラザ（仮称）検討市民会議というものもあり、市民にとって様々な学習の機会をどのように提供していくのか、工夫していると思うので、皆さん関心を持ち続けていってほしい。</p>
委員	<p>分析ツールである「SWOT」の有効性を今後も市民会議で認識して欲しい。また、事務局が「バランススコアカード手法」・「Project Cycle Management 手法」等のスキルを事前に習得することで、より一層、効果的な会議運営ができると思う。</p> <p>今回の会議で、市内には、多くの環境関連の団体が活動されている事を知った。その多くの環境関連団体の活動と市の事業が重複しないためにも、市の環境施策の方向性について周知していく必要があるのではないかと考えている。</p> <p>最後に、市の環境部長が委員として会議に参加されていることは、会議内容が直接伝わるため、重要であると感じた。</p>
委員長	<p>第9期の環境市民会議を引き受けたとき、縦割りの行政に見える化したいと考えていた。庁内の様々な課を呼んで話をしてもらったら良かったのではないかと思う。今期の形になった成果物は2つだが、それ以外にも形にならない成果物があったと思っている。</p>